

授業科目名・形態	介護福祉論	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	中里 操	開講期	4年前期	単位数 1

【授業の主題】

本講では介護福祉問題について、直接的な介護実践の技術・支援内容に収斂することなく、介護の問題を家族の形成、維持における生活維持機能の障害という認識、つまり社会福祉問題とその社会的対策としての「社会福祉」という視点から総括的に捉え、論じる。

【到達目標】

1. 直接介護を必要としている人、その人を支える家族問題、地域の視点から介護システムを理解する。
2. 介護を必要としている人に寄り添ったよりよい介護サービスを提供するために、大切なのは実践者自身の健康と生活である。この自身の生活力（質と量）を高めるための働き方の問題も正しく認識する。
3. 地域福祉の最重要課題である地域包括ケアの推進における他制度・機関、他職種との連携問題などについて対応できる実践力を培う。

【授業計画・内容】

- 第1回 介護問題を考える①（私的介護と社会的介護）
- 第2回 介護問題を考える②（社会福祉問題としての介護問題）
- 第3回 介護実践と介護保険制度・介護行政・社会福祉制度・政策から福祉社会システムへの転換
- 第4回 介護の実践内容（尊厳を支える介護と自立支援、個別ケアとICF）
- 第5回 介護実践のマネジメント（ケアマネジメントとリスクマネジメント）
- 第6回 介護実践における連携、新しい流れ（地域包括ケアとそのシステム）
- 第7回 介護実践における連携、新しい流れ（地域包括ケアとそのシステム）
- 第8回 介護実践者における健康と生活（介護労働を考える）

【授業実施方法】 講義（必要に応じて介護実習体験における学びを教材とする。）

【授業準備】 新聞等により社会と介護に関する関連事項に関心を寄せておくこと。

【主な関連する科目】 社会福祉概論・公的扶助論・高齢者福祉論・障害者福祉論・地域福祉論等

【教科書等】 特に指定はない

【参考文献】 適宜紹介する

【成績評価方法】

（出席状況・参加態度・レポート・小テスト）50%と（定期試験成績）50%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

本講は介護に関する直接的、基本的な専門知識・技術はすでに学習していることを前提にすすめる。そのため十分な予習・復習を必要とするが、大事なことは関心を寄せることである。積極的な受講を期待する。